

県内企業の温室効果ガス排出削減に関する取組状況・意識調査

群馬経済研究所 主任研究員 櫻澤広祥

調査のポイント

世界的に環境保全に対する機運が高まる中、企業にとっては環境保全と事業活動の両立という課題がある。アンケートにより県内企業の温室効果ガス排出削減に関する取組状況や意識について調査を実施した。

要約

- 温室効果ガスの排出削減への取り組みについては約半数が既に取り組んでおり、取り組み検討中も含めると7割超が前向きに捉えていた。
- 取り組んでいる内容では「省エネ」が7割超で最多となり、次いで「廃棄物の抑制、再資源化」、「ハイブリッド車、電気自動車の導入」が続いた。
- 取り組み理由では「CSR、SDGsへの対応」が5割超で最多となり、次いで「コストの削減」、「事業継続性の確保、構築」が続いた。
- 取り組みにおける課題では「取り組むためのノウハウ・スキルが不足」が4割弱で最多、「設備等導入のための資金が不足」、「何をしたら良いかわからない」も上位となった。傾向としては、情報・知識面での不足や資金面の懸念などが多く挙げられた。
- 企業が求める温室効果ガス削減に関する情報や支援制度等は既に提供されているが、それが企業に充分届いていない現状がある。まずはこれらを周知、活用することが重要となる。